

ツバメチドリ

Glareola maldivarum
Forster

チドリ目
CHARADRIIFORMES
ツバメチドリ科
Glareolidae

カテゴリー

大分県
環境庁

選定理由 日本への飛来個体数が少なく、繁殖が局地的である。県内でも毎年数羽飛来する程度である。

県内分布 河川、農耕地、埋立地などに希に飛来する夏鳥または旅鳥。

分布域 本州(茨城、栃木、埼玉、愛知、大阪)、四国(徳島)、九州(福岡、熊本、宮崎、鹿児島)では局所的に繁殖。その他の地域では希な旅鳥。中国で繁殖。中国南部、マレー半島、インドネシア、オーストラリアなどで越冬。

生息環境 草地、乾燥した農耕地、埋立地などに旅鳥として飛来する。裸地の地上に営巣する。おもに、地上を走ったり、空中を飛び回って昆虫類を捕食する。

現 状 県内でも毎年数回観察されている。飛来する個体数は10羽以内であると推定される。

ズグロカモメ

Larus saundersi (Swinhoe)

チドリ目
CHARADRIIFORMES
カモメ科
Laridae

カテゴリー

大分県 IB
環境庁 II
水産庁 絶滅危惧種

選定理由 本種の総個体数約5,000羽のうち、九州北部の海岸部に約1,000羽が越冬する。県内には数10羽が越冬する。泥質干潟に依存している鳥であるが、採餌場所である泥質干潟が近年急激に減少している。世界的に絶滅のおそれのある種である。

県内分布 杵築湾以北の干潟に飛来する冬鳥。

分布域 九州北部に冬鳥。中国北部、モンゴルなどで繁殖。九州北部、中国南部、台湾で越冬。

生息環境 海岸、海上に生息し、泥質干潟で甲殻類、ゴカイ類などの水生小動物を採餌する。

現 状 中津、杵築の海岸に数羽~数十羽が越冬する。北九州の曾根干潟には、毎年二百数十羽が越冬し、その一部が県北の干潟に飛来するものと思われる。県北の泥質干潟は少なくなってきている。

備 考 国際自然保護連合：危急種、ボン条約付属書I登録種。

コアジサシ

Sterna albifrons sinensis
Gmelin

チドリ目
CHARADRIIFORMES
カモメ科
Glareolidae

カテゴリー

大分県 IB
環境庁 II
水産庁 減少傾向

選定理由 全国的に河川改修、海岸部の埋め立て、造成、防波堤工事、自動車の進入などにより、繁殖に適した環境が激減している。県内でも、10数年前まで数か所で集団繁殖していたが、近年は、繁殖がほぼゼロに近い状態が続いている。

県内分布 大分川、大野川及び海岸部の砂礫地で繁殖する夏鳥であったが、近年は春秋に通過する旅鳥。

分布域 本州、四国、九州、琉球諸島で夏鳥。朝鮮半島、中国全域、台湾で繁殖。東南アジアで越冬。

生息環境 海岸部や湖沼の岸、大きな河川の砂地・砂礫地に集団で繁殖する。空中からダイビングして小魚を取って食べる。

現 状 新たな繁殖地として、海岸部の造成中の更地を使うようになっている。中州の営巣地は釣り人の接近や、増水によって失敗する例がみられた。

備 考 国際希少野生動植物種。